

# 平成21年度 甲子園監督研修報告

常任理事 寺澤 誠一

今夏も四支部の若き指導者とともに、リニューアルされた甲子園球場を中心に行われた監督研修に参加した。本研修のお手伝いをして今年で5回目であるが、初めての雨。予定されていた試合が順延となり、心齋橋の県代表宿舎に直行を余儀なくされた。平成10年に始まり、12年に及ぶ研修の中で開幕試合が二度もノーゲームとなり、初日の研修が中止となったのは初めてのことと思われる。翌11日からは、高校野球にふさわしい夏空が戻った甲子園球場で熱い研修が実施された。

今年は、県連盟から事前に井本 亘日本高野連主任に案内を依頼してもらってあったので、球場到着後大会本部で立てた研修予定に従って、1塁側室内練習場での取材の様子、第2試合の長野日大と作新学園のオーダー交換、試合終了後のインタビュー及びクーリングダウン等の視察を迅速に行うことができた。オーダー交換には昨年も立ち会ったが、試合前の緊張感に包まれた両主将の真剣な眼差しは言うまでもないが、球審を担当する野口審判員からの激励の言葉や連盟役員の主将への諸注意の言葉に、フェアプレー・フレンドシップの精神の大切を感じることができ、とても印象に残った。午後は甲子園球場に近い津門中央公園野球場で15時から2時間の予定で行われた花巻東の練習を視察。翌日の試合を想定した気迫あふれる選手達の動きや今大会注目の左腕菊池投手のピッチング練習を間近で見ることができた。甲子園球場に戻る際、バックネット裏で偶然菊池選手から挨拶されたが、「こんにちは」の一言にとっても好感が持てた。

研修最終日は関西学院の試合観戦に訪れた高校野球ファンの多さに驚かされた。券売所から甲子園駅近くまで並んで入場を待つ人の列に、長い歴史と伝統、地元校への熱い思いに支えられてきた高校野球の魅力を改めて実感した。

最後に、例年のことながら選手権大会の本部員としてお忙しい中、何かとお世話下さった奈良井常任理事をはじめ、本研修実施にあたりご尽力いただいた連盟関係の方々に深く感謝申し上げたい。

## 1. 期 間

平成21年8月10日（月）～12日（水） —2泊3日—

## 2. 場 所

阪神甲子園球場（兵庫県西宮市甲子園町）

つと  
津門中央公園野球場（兵庫県西宮市津門住江町）

### 3. 内 容

11日 試合視察 旭川大 — 常葉橘  
長野日大 — 作新学園  
南砺福野 — 天理  
高知 — 如水館

#### 球場施設内見学

1 塁側室内試合前取材

オーダー交換

試合後インタビュー

理学療法士サポート

練習視察 花巻東

12日 試合視察 関西学院 — 酒田南  
龍谷大平安 — 中京大中京

### 4. 参加者

宮崎俊彦（北信支部 長野西） 塚田和弘（東信支部 軽井沢）  
大槻 寛（南信支部 高 遠） 北澤大輔（中信支部 明 科）  
寺澤誠一（常任理事 責任者）

## 第91回全国高等学校野球選手権大会

甲子園研修レポート（8月10日～8月12日）

長野県軽井沢高等学校

塚田 和弘

甲子園研修は、テレビでは伝わらない臨場感・緊迫感、甲子園でプレーすることのすばらしさを肌で感じることでできた3日間だった。

雨で順延したのが幸いし、長野日大の選手に密着し、甲子園の裏側まで見させてもらった。球場関係者はもちろん、報道関係者、選手の健康を管理するメディカルチーム、野球道具を点検する専門の方など、選手たちが甲子園という最高の舞台上、最高のプレーができるのには、それを支えている数多くの人がいることを知った。その中でも驚いたのは道具のチェックだ。実際にバットのチェックを拝見した。重さをはじめ、メーカー名、傷があるかないか、3人の専門の方が細かく見ていた。その審査に合格したバットが専用のシールを貼られ実際の試合に使われる。あたりまえの光景ではあるが、なぜか不思議な感覚だった。さらに驚いたのは試合後のクールダウンだった。専門のスタッフが選手を控え室に集め、体操や柔軟の指導していた。7～8人といったところだろうか。ピッチャーにはマッサージを、各選手には30分ほど手取り足取り念入りにクールダウンをさせていた。試合後、選手たちの疲れはピークであると思うが、このようなケアが翌日の疲れを軽減させるのだと感じた。

今回は長野日大・作新学院の先攻後攻のトスにも立ち会えた。各チーム主将、部長、県高野連理事長、日本高野連役員が集まり厳かな雰囲気が進められた。試合前準備の合間、ましてや涼しい部屋で行われており、選手の体が動かなくなってしまうか不安を覚えた。しかしそれを吹き飛ばすような強い闘志を各主将から感じ取れた。選手間同士の握手と、球審を務める野口審判の『フェアプレー』という言葉が強く印象に残った。

### 8月11日 第1試合 旭川大 VS 常葉橘

球場に到着後、第1試合を観戦した。今大会注目の右腕、常葉橘のエース庄司は、初回反則投球や味方のエラーなどで得点圏にランナーを進められるが、甲子園の初登板とは思えない冷静さで後続を切つてとる。一方その裏旭川大のエース柿田は先頭を切るが、次のバッターに2塁打を打たれランナーを背負う。その直後、自らのボークでランナーを3塁に進められると、次のバッターにタイムリーを打たれ1点を献上された。この試合は初回の攻防で明暗が分かれ、結果常葉橘が勝利した。

### 第2試合 作新学院 VS 長野日大

第2試合はシートノックからの観戦になった。私なりに両チームを比較したが、作新学院の選手は体が日大の選手より一回りも二回りも大きく、ノックも軽快さを感じた。少し

力に差があるのではと思ったがそれは間違いだった。以前にも見たが、日大の選手は投球練習の際全員でタイミングをとるなど食欲であり、ここ一番の集中力がすごかった。中原監督の采配もすばらしいが、その指示通りに動く日大ナインを見て感銘を受けた。

#### 8月11日 練習見学（花巻東高校）

甲子園近くのグラウンドで花巻東の練習を見学した。全国レベルのチームは当たり前のごとくしっかりできていた。挨拶・礼儀・声の出し方・全力疾走と見ていて気持ちのいいチームだった。特にエースの菊池雄星投手の練習態度には目を見張るものがあった。アップや柔軟の長さ、キャッチボールもフォームを確認しながらゆっくり15分程度、投球練習の後にも1人じっくりとダウンをしていて、自分の体を大切にしているのがわかった。菊池君とすれ違う機会があったが、真つすぐと立ち、頭を下げた挨拶をしてくれた。なんで菊池君が注目されるのか自分の中で合点し、そして応援したくなった。野球だけではない花巻東高校の良さを垣間見ることができた。

#### 8月12日 第2試合 龍谷大平安 VS 中京大中京

この試合は私にとって学ぶことが多く、全体を見るより、個人個人を見た試合でもあった。両チームとも各選手が野球をよく知っていて、常に先を予測し状況に応じてプレーできているのがわかった。その中でもキャッチャーからピッチャーへの返球に対する二遊間のカバーリングの丁寧さには驚いた。さらに素振りをじっくり見てみると、1人1人のスイングがとてもキレイで、しっかりとひじを入れバットを内から外へ振っていた。センターから逆方向への意識付けがしっかりできているのだと感じた。帰りの新幹線の時間もあり、途中までだったが、両チームが実力を出し合った好ゲームだった。

どの選手も地方大会を勝ち抜いた自信からか、どことなく大きく、格好良く見えた。そして、甲子園で野球をできるという喜びが溢れ出ていた。いつかこの場所で生徒と一緒に野球をやりたい・・・いや、やってやると思った。

最後になりましたが、一緒に甲子園に同行して頂いた寺澤先生にはお忙しいなか、本当にありがとうございました。また、一緒に研修に参加した宮崎先生・北澤先生・大槻先生とは、それぞれの野球理論や各高校での現状をお聞きすることができ、とても参考になりました。

このような研修の機会を与えてくださった長野県高等学校野球連盟に心から感謝申し上げるとともに、甲子園研修での経験を生かし、今後県内の高校野球の発展に努めていきたいと思えます。

## 平成 21 年度 甲子園研修

高遠高等学校野球部

監督 大槻 寛

阪神甲子園球場に観戦に行くのは2回目でした。前は春の選抜大会の観戦だったため夏の甲子園大会の観戦は初めてでした。8月初旬に組み合わせ抽選会があり、本研修の日程と照らし合わせてみたところ、長野県代表の長野日大高校の試合や大会NO.1投手である菊池雄星くん擁する花巻東高校の試合を観戦できることが解り、ワクワクした気持ちになりました。

しかし、出発当日は雨。名古屋に向かう電車の中で甲子園大会も中止になったという知らせが入り、大変残念な思いをしました。甲子園球場の中野施設を見学させていただく手筈を寺澤先生が一生懸命とってくださっていたのですが、それも実現できませんでした。一日目は同行した4名の先生方と、普段の野球部指導の苦勞を相談しあったり、大会の反省をしあったりと、また違った意味での有意義な研修の時間となりました。

2日目。宿泊したホテルが長野日大高校と同じだったため、出発する中原監督と日大ナインを見送りました。それほど緊張している様子もなく、リラックスした様子でした。高遠高校は長野県大会の4回戦で長野日大と対戦しましたが、そのときと同じく非常に自信に満ちあふれた日大の選手たちの表情が印象的でした。中原監督も「頑張ります!」と気合いの入った挨拶をしてくださいました。

ホテルから出たの我々の第一声は「暑いなあ!」でした。出発したのは8時くらいでしたが、すでに外にいるだけで汗がしたたり落ちるような暑さでした。長野にはない、「蒸し暑い」夏の陽気でした。こんな中、野球をするのか・・・と、改めて暑さに対する慣れや対策は信州球児にとって必要不可欠だと感じました。

この日の観戦はとにかく長野日大高校さんの一戦につきます。相手は栃木県の作新学院高校でした。長野県大会の4回戦で対戦したときも感じましたが、

日大の打者はとにかく「選球眼」が素晴らしかったと思います。明らかなボール球ではなく、主審が迷うようなコースをしっかりと見逃し、「ボール」のコールを受けていました。相手校の投手は本当に苦しかったと思います。そして甘くなったボールをしっかりととらえる。日大高校の攻撃力は甲子園でも健在でした。試合は乱打戦となり、両校の粘りを見ることができました。

この試合のあと、寺澤先生のおかげで花巻東高校の練習を見学することができました。注目の菊池くんのピッチングを間近で見ることができました。ゆっくりと、ゆったりとキャッチボールを繰り返し、入念に「肘」の高さをチェックしているように見えました。ピッチングでは翌日の対戦相手である長崎日大の打線を意識し、「左・右・右・左・・・」と順番に打者を立たせていました。よく考えて投げている、という印象を受けました。自分の感覚や、ボールの軌道など入念にチェックしている姿が印象的でした。

今回の研修を通して一番感じたことは「キャッチャー」のレベルの高さでした。特に作新学院のキャッチャー・松崎君は本当に印象に残りました。かなり大柄で、プロテクターが小さく見えるほどでした。敏捷性はないのかと感じましたが、見事にその考えを裏切られました。正確で素早いフットワーク、セカンドベースまでの鋭い送球。元気の良さと、的確で流れを理解したタイムのタイミング。どのチームにも「フィールド内の監督」と呼ぶにふさわしいキャッチャーがいました。投手が140キロを超える事は甲子園のレベルになると今や当然に成りつつあります。どんなにストレートが速くてもしっかりと打ち返されてしまうことが今回の研修でわかりました。だからこそ、キャッチャーの配球は重要性を増し、守備陣を統率するリーダーシップは必要不可欠です。また、ランナーに対して必要以上の注意を払わせないキャッチャーのスローイングも県内のレベルを遙かに上回っていたと感じました。柱となるキャッチャーがいることが強いチームを作る上での条件であると再確認することができました。

今回研修させていただけたおかげで、改めて「甲子園」の魅力に気づくことができました。いかにして近づくのか、どこに差があるのかをしっかりと生徒に伝え、自分の肥やしにしていきたいと思います。今回はこのような機会を与えていただき、本当にありがとうございました。